

第 23 回青年対策交流集会の感想文

全港湾 沖縄地方青年女性部書記次長 金城 雄介

私が沖縄地方の青年部部長の時に、第 23 回青年対策交流集会の運営をやりと発言し、コロナウイルスの影響で 3 年間凍結していました。その間、家庭の事情もあり、青年部部長を退任することになりました。あとを引き継いだ、新里良平さんが、青年部部長になり、3 年間待ちに待った青年対策交流集会が開かれることになりました。そのまま、沖縄、関東、関西が運営をやりと代表者会議できまり、運営の LINE グループで書類作成、日程等の確認、内容の確認をし、この日を迎えました。

沖縄メンバーは、3 泊 4 日で前泊して愛知県豊橋市シーパレスリゾートホテルに泊まりました。

会議場の確認、分散会の部屋の確認、受付の確認、コロナ検査の確認等、運営の仕事をしっかりと頭に入れ、スムーズに運営を行ないました。時間も限られたなか、全国の青年部、中央本部の協力もあり、ほとんどの工程を無事に出来たことが何より嬉しく思います。初日の鈴木誠一委員長のオルグは、全港湾の歴史でした。1 時間で、全港湾の歴史を語れないので、全港湾の入り口までをお話ししていただきました。戦後すぐ、労働組合が出来たのは、戦争が負けると分かって下準備をしていた人達がいたからなんだと知りました。当時の考えでは、非国民だと言われると思うが身の肌で感じて動いているので、その人達はとても賢い人だったんだなと思いました。先代方の全港湾の歴代中央執行委員長の顔写真が載っている書類もあり、写真的にも古かったので歴史があるんだとすぐわかりました。2 日目の全国港湾中央執行委員長の真島勝重委員長が、巻原発のたたかいを講和してくださりました。沖縄には原発がなく、初めて聞いた名前は何の原発のたたかいだろうと思っていました。

そこには、今も変わらない日本政府のやり方がその当時からあったんだとわかりました。そして、町長の裏切り、東北電力の考え、全てがその土地に住む人達を考えていないなと思いました。私も沖縄に米軍基地があり、東京のど真ん中に基地を持っていけと思っています。政府は、昔から危ないものは東京のど真ん中には持っていかないと考えながら、他の地方を犠牲にしていたんだと改めてわかりました。真島委員長が若い頃は全港湾の運動はしないで、地方の運動、特に巻原発の運動に力を入れていたのがとても印象に残りました。人生にはターニングポイントがあり、色々つまづく事があっても決してあきらめない事が大事なんだと言っていたことが凄くわかる巻原発の戦いだなと思いました。日本で初めて政府が決めた事に白紙撤回をさせた、勇気をくれた内容の講話でした。私たち沖縄地方も、諦めずに声を上げ、知恵を絞り米軍基地を、そして自衛隊の南海シフト、日本政府の悪の戦略にたたかっていきたいと思っています。

2 日間の夕食懇親会は、分散会の班ごとに座り、交流を深め、部屋番号 614 バー鶴岡で大変楽しくお酒を飲んで話すことができました。ほとんどの地方が来ており、部屋は大盛り上

がりでした。

2日目のオルグと講話を聞いて、質問などの意見交換で、鈴木委員長があたふたしていた場面もあり、青年部の質問が鋭いなと思いました。そのぐらい、各班で話し合いが出来ていたのが良かったです。

最終日の分散会の発表は、班ごとでも似ている感じの内容だったが、東北の震災経験者で、実際に小学校から避難した青年部がおり、当時の経験談を話してくれました。経験者の言葉はとても重く、原発は絶対いらないと改めて思いました。

土日、祝日に働かなくていい賃金で生活ができるとの思いは、まさにその通りだと思います。今は、土日、祝日に働かないと生活出来ないのでプライベートの時間がありません。この問題も、全港湾、力を合わせて頑張って勝ち取らないといけないです。最後になりますが、お忙しい中、青年対策交流集会を開催してくださりました、中央本部の皆さま、本当にありがとうございました。講師をしてくださりました、全国港湾中央執行委員長の真島勝重委員長、大変お忙しい中の時間の調整、本当にありがとうございました。そして、運営の3地方の皆さん、3日間お疲れ様でした。とてもいい経験ができ、自分達の力になると思います。これからも横の繋がりを大事にして青年部活動、組合活動を頑張っていきたいと思います。